



令和8(2026)年度 6月号 檀原市立真菅北小学校 令和8年6月1日

真菅北だより

学校教育目標 自ら学び、考え、判断して行動できる心豊かでたくましい児童の育成

みんなでつくる学校 ～1年生よろしくね会～

新年度がスタートして2か月。学校生活にも少しずつ慣れてきた1年生を迎えるため、全校集会「1年生よろしくね会」を開催しました。

この集会に向けて、代表委員会を中心に子どもたちが一生懸命話し合い、準備を進めてきました。当日は、最高学年である6年生が優しく1年生と手をつないで入場。全校で盛り上がった「〇×クイズ」や、学校キャラクターのマスクットをデザインした「メダルのプレゼント」など、会場は終始温かい笑顔に包まれていました。

はじめて3番まで響いた歌声、そこに込められた願い

その中でも、特に印象的だったのが「歌のプレゼント」です。子どもたちが話し合いの中で「1年生に贈りたい」と選んだ曲は、私たちの「校歌」でした。感染症の流行以降、全校で集まって校歌を歌う機会は限られ、歌うとしても「1番のみ」。しかしこの日、6年生入学以来はじめて、全校児童の大きな歌声が、3番まで体育館に響きわたりました。本校の校歌には、子どもたちの健やかな成長への願いが、それぞれの歌詞に込められています。

1番:【元気いっぱいのからだ】

朝のお日さまみたいに、エネルギーいっぱいであつきたい子になろう

2番:【やさしい心】

みどりの自然にかこまれて、みんなとなかよくできる優しい子になろう

3番:【がんばるあたま】

ひろい空の下で、勉強をがんばって未来にむかってのびていく子になろう

これまで1番で止まっていた歌声を3番まで歌いきったことで、未来への希望を全校で分かち合うことができた気がします。1年生の皆さん、ようこそ真菅北小学校へ！

「たくましく、優しく、未来へ向かって」。

校歌の願いを胸に、全校生の絆がぐっと深まった素晴らしいスタートの会となりました。



芸術鑑賞会 「舞太鼓あすか組」

先日、本校体育館にて芸術鑑賞会を行いました。今回は、関西を拠点に活動されているプロ和太鼓集団「舞太鼓あすか組」の皆さんをお招きし、和太鼓演奏と神楽（かぐら）を全校で鑑賞しました。

公演が始まると、体育館に響く太鼓の音の響きと迫力に、子どもたちは一瞬で引き込まれ、集中してステージに見入っていました。続いて披露された神楽では、美しい衣装をまとった鬼や天狗に扮した演者たちの、コミカルな動きや力強い舞が繰り広げられました。言葉はありませんが、その豊かな表現によって物語の世界に引き込まれていく、不思議な魅力を味わうことができました。

途中の児童参加コーナーでは、「太鼓で大切なのは『構え』と『掛け声』」であると教えていただき、子どもたちも実際に挑戦しました。腰を低く落とした構えを作り、元気な掛け声を響かせながら、目を輝かせて楽しそうに参加していました。

プロの演奏や演技を間近で鑑賞し、「本物」に触れた充実した時間となりました。舞太鼓あすか組の皆様、素敵な時間をありがとうございました。



人権教育講演会「今、子どもたちに本当に必要な力とは・・・ ～当たり前をうたがうことから～」

先日、休日参観の後、奈良県人権教育研究会会長の大越克也先生をお招きして、人権教育講演会を開催いたしました。

現在、子どもたちを取り巻く環境は、一人1台のICT端末の導入や外国語教育など教育内容が多岐にわたり、様々な力を付けるための施策が進められています。しかしその一方で、現代は「VUCA（ブーカ）の時代（予測困難な時代）」とも呼ばれ、子どもたちの未来は決して明るい状況ばかりとは言えません。

変化の激しい時代を生きる子どもたちを前に、私たち大人はつい焦ってしまいがちですが、そんな今だからこそ、大人側に求められる大切な姿勢として以下のポイントを教えていただきました。

1. 待ちましょう・・・見守られ、自分自身で決められる状況下でこそ自主性は育つ。
2. 認めましょう・・・結果だけでなく、「やろうとした気持ち」「過程」そのものを受け止める
3. ○○したら～あげるをやめましょう・・・勉強する楽しさ、学ぶ喜びそのものを知る。
4. 自分らしさを大切に・・・AIが席卷するこれからの世の中で、「当たり前」を根底から覆す創造力や発想が不可欠で、人間らしく生きるためには「個性」や「自分らしさ」が必要。

大人が「これが当たり前」と思い込んでいるルールや価値観を少し疑い、視点を変えて子どもと向き合うことが、子どもたちが自分らしく、たくましく生きる力を育む土台となります。日々の接し方を振り返り、子育てや教育のあり方について大切な視点をいただいた貴重な時間となりました。ご参加いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。